

ホクレン営農支援情報

(2021年9月号)

●令和3年度 家畜の労働安全 Web 研修会を開催します 《営農支援推進課》

道内における農作業中の負傷事故は年間 2,200 件前後発生し、ここ数年増加傾向にあります。家畜による事故も多く、大半が牛との接触によるものです。こうした事故を防ぐには、事故の実態を知ることや安全意識向上が求められます。

営農支援センターでは、家畜の労働安全をテーマとした Web 研修会を開催します。YouTube 内の「ホクレンアグリポートチャンネル」で、9月13日から研修動画を限定配信する予定です。お問い合わせは、JA を通じホクレン各支所の営農支援室へお願いします。

令和3年度 家畜の労働安全Web 研修会カリキュラム (案)

時間	講義内容	講師
40分	乳牛との接触による事故の実態と対策の考え方	農研機構 農業機械研究部門
40分	畜産業の労働安全～知識と仕組みとアイデアで事故を防ごう～	オホーツク総合振興局 網走農業改良普及センター
20分	家畜労働安全の最前線を巡って	(株)トップファームグループ

●異業種と連携した労働力支援の取り組みを開始 《営農支援センター》

JA グループ北海道では、大手旅行会社 JTB と連携した労働力支援に取り組んでいます。労働力不足が課題の農業現場と、コロナ禍で仕事が減少したホテル、旅館、バス会社などから JTB の幅広いネットワークで人材を確保し、地方創生に貢献したいという同社の思いがマッチして始まりました。

作業は JTB が JA から受託して行いますが、具体的な取り組みとして 8月16日から JA 新おたるの生産者 2 戸でミニトマトの収穫作業が始まり、毎日 1～5 名が 9月上旬まで作業

する予定です。詳細はアグリレポート 33 号（10 月号）で紹介します。



JA 新おたる管内生産者圃場でのミニトマト収穫作業

●2021 年産秋播き小麦「きたほなみ」の収穫《訓子府実証農場 農産技術課》

訓子府実証農場では 7 月 28 日に、きたみらい麦作振興会・JA きたみらいと連携のうえ、収量センサー付きコンバイン（3 年目）で秋播き小麦の収穫作業を行いました。

今年度も引き続き、このコンバインで得られたデータを用いて、①収量マップを利用した圃場特性の把握、②次年度に作付けする品目の施肥検討、などへの活用を進めていきたいと考えています。



収量センサー付きコンバインでの収穫

●土づくりの作業機を使いこなすツール《営農支援推進課》

収穫作業が終わると、心土破碎や耕起など、次年度に向けた作業が始まります。こうした土づくりの作業機の機能や上手な使い方など、改めて確認するのはいかがでしょうか。昨年 8 月に発行したアグリレポート 26 号特集「土づくりの作業機」では、心土破碎や反転耕起、耕うん作業機の機能や、作業機着脱時の注意点を紹介しています。参考にしてみてください。

バックナンバー アグリポート 26号

特集「土づくりの作業機」

- 心土破碎、反転耕起
- 耕うん
- 作業機着脱時の注意点



<https://www.hokuren.or.jp/kouho/ap/backnumber/26.pdf#page=4>



ホクレンの営農情報誌「アグリポート」 **なるほど!** 明日に役立つ、“わかる” 営農情報を掲載!

アグリポート ホームページ

YouTube チャンネル

YouTube は Google LLC の商標です

発行：ホクレン農業総合研究所 営農支援センター 営農支援推進課

Tel. 011-788-5467 E-mail. einousiensuisin@hokuren.jp